

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 SNOW PLUM	代表者	毛利友紀	法人・ 事業所 の特徴	介護保険事業として訪問介護、通所介護、居宅介護支援事業所を併設。 障害者自立支援事業として放課後デイ、就労継続支援B事業。 独自事業として介護タクシー、民間救急事業、再度山には稲荷茶屋を展開。 自社内厨房で調理した手作りの食事、自然豊かな稲荷茶屋や地域への外出活動を通し 心身の健康が図れるよう取り組んでいる。
事業所名	PLUMの里	管理者	山下由紀		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	人	1人	人	2人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	前回の取組みで得た結果から、 個別ニーズを引き出し、援助計画 に落とせるようにする。	ミーティングでの事例発表を行 った。 個別ニーズを援助計画に反映さ せる事ができた。	特に意見はなかった。	毎月のミーティングでの事例発 表を継続して行う。 日常で得た情報をタイムリーに 報告、ケアプランとの整合性を図 る。
B. 事業所の しつらえ・環境	立地条件は変更不可能。 看板も美観上の問題も有り変更 は難しい。 案内をする時には工夫をする。	見学希望者にはあらかじめ丁寧 なご案内を行った。 小規模入口にも手作りの看板を 作成する計画を立てた。	インターホンを使用し開錠して もらわないと入れない。 入る時だけフリーオープンにな る扉の事業所もある。	立地条件は変更不可である為、案 内する時の説明を継続して工夫 していく。
C. 事業所と地域の かかわり	地域の人に気軽に来てもらえる 場所になる為、事業所から出向き 存在を知ってもらう。 参加できるふれあい喫茶を増や す。	再度山稲荷茶屋での利用者との 交流の中で地域の人に事業所を 知ってもらうよう関わりをもつ 事ができた。	近所の交番に相談に行っている 方も存在する。	地域の方が気軽に立ち寄れる場 所となるよう施設でイベントを 行う前には近所にお知らせをす る。地域のイベントを調べ参加で きるよう努める。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	社会資源の理解が職員間で乏し いので利用者を取り巻く社会資 源をエコマップを作って理解す る事から始める。	エコマップ作成に取り組む事が できた。	昔から暮らした地元も現在ご利用 者が暮らすぶらむの里付近も 地域と言えるのではないかと。	昨年作成したエコマップをさら に詳しく大きくしていく 定期的な外出支援活動は継続し ていく。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	参加者と情報交換するとともに あんしんすこやかセンターから 地域情報を収集する。	あんすこからの紹介や情報収 取ができた。	運営推進会議参加者も入れ替わ りがある。新しい情報を得るよい 機会である。	引き続きあんすこからの情報収 集を行い会議をさらに活かして いくよう取り組む。

F. 事業所の 防災・災害対策	地域に協力を求めることも想定してマニュアル、防災計画の見直しをする。 近隣に防災訓練の案内をする	H29年の防災訓練時にはあらかじめ近隣への案内ができなかった。次回からは実施日を早めに検討し準備に努める。	建物の2階が施設なので非常時の避難には課題がある。	早めに防災訓練日を設定し計画的に訓練を実施する。 夜間の防災訓練実施も実現できるように計画を立てる。
--------------------	---	---	---------------------------	---